

## カシオペアと一歩の会に出会って～安心できる場所と少しの変化～

Y・Y（小学校5年男子保護者 2026年3月記す）

「カシオペアだと、勉強がすすむ。」家では鉛筆を持つことに抵抗があった息子が、フリースクールカシオペアへ通い出してから言いました。

カシオペアの教室はビルの3階。やわらかい日ざしが入る空間で、勉強の合間には「眠い～あったかい～」とごろ寝。息子の顔は、リラックスした表情。無理をしていない顔です。

カシオペアには小学校5年生になった頃に通い出しました。その前に、アサヒキャンプ名古屋のマイスペースでも楽しい時間を体験していたので、「あそこね～」と納得してくれました。

通い始めて1年ほど経ちました、中久木先生は、息子の“引き出し”を次々に開けてくれます。ブロック、電車の車両の値段、ゲームの課金、戦争の話、バッティング、卓球、片足立ち、将棋、ウノ。勉強だけではありません。そのたびに、息子は先生との会話を楽しんでいます。先生はいつも言います。

「大丈夫、できるから。すごいよ、やっておくと得するよ～。」

息子は聞いていないようで、しっかり聞いています。隣で聞いている私はその言葉にいつも救われています。ありがとうございます。

息子はカシオペアの時間の中で、安心できる場所を見つけています。そして“できない自分”ではなく、“できる自分”に出会って、楽しくなってきたように思います。

親である私はずっと、いつも期待を持ちすぎていて、落ち込むことばかりでしたが、何が育っているのかを、少しだけ見られるようになりました。保護者が困りごとをざっくばらんに話す「一歩の会」に参加するようになったことが大きな変化でした。

「どうしてできないのか」と立ち止まるのではなく、「どうすればやりやすいか」と考えられるようになりました。頭ではわかっているのですが、これがなかなか一人ではできないことです。一歩の会へ参加する前は、毎日起こる出来事に心が揺れてばかりでした。

もちろん、今も日々完璧ではなく、心は揺れます。それでも、少し気持ちが楽な気がするのは、中久木先生の「生き残る作戦を考える」という力強い言葉です。日々の生活の中で感情が揺れる時、先生その言葉が私を現実に引き戻し、「作戦」の思考に切り替えます。そんな、ほんの少しの積み重ねがとても大切と日々感じています。